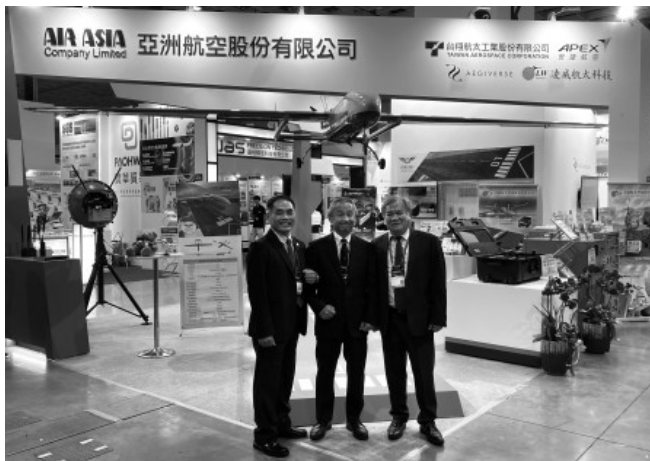


ナビコムアビエーション、海外展開へ 台湾の2社と契約締結



前列左端がナビコムアビエーションの平塚弘司代表取締役社長、真中が玉中宏明取締役会長（東京・ナビコムアビエーション社にて）



左からLink Wave Aerospace Technologies, Inc社のPresidentであるChiang-Ho Lu氏、ナビコムアビエーション平塚社長、Air Asia Company Limited 社 Chairman & President のTien-Lin Lu氏（台湾にて）



動態管理システムや地図情報表示装置など、航空機用装備品を取り扱い、イリジウム衛星通信サービスのプロバイダでもあるナビコムアビエーション株式会社（平塚弘司代表取締役社長）は9月1日、台湾のAir Asia Company Limited社（AACL）と、同じく台湾のLink Wave Aerospace Technologies, Inc社との間で、正式に業務提携契約を締結したと発表した。

ナビコムアビエーションにとって今回の契約は、同社製品の製造保守体制の強化と取り扱い製品のラインアップの拡充とともに、日本—台湾間協力での開発など、海外展開の可能性にもつながる、意義のあるものとなる。

Air Asia Company Limited（AACL）は1955年に設立され、本部は台南市にある。AACLは台湾で最初の民間航空機整備会社で、卓越したリーダーシップにより、プロフェッショナルな世界クラスの航空機MROへの変革に成功し、これまで顧客に

最高品質のサービスを提供し続けている。同社には、民間航空機部門、軍用機部門、ヘリコプター部門の3つの事業部門があり、現在もアジアを中心に各国のユーザーの信頼を一身に集めている。

一方Link Wave Aerospace Technologies, Incは2001年に設立、拠点を新竹市に置く。主に高電圧、高周波数、高出力、高品質のマイクロ波システムの組み立てを主力事業としており、台湾国内外の信頼を集めている。また軍事・及び民間向けの半導体事業の為の高電圧ソース及びRFシステムのメンテナンス作業も提供している。

Air Asia Company Limited、Link Wave Aerospace Technologies, Inc及びナビコムアビエーションの3社は、「皆様より更なる期待を寄せて頂けるよう、力強い協力体制により業務を推進し、国内外の顧客に信頼頂けるサービスを提供して参ります」と述べた。